

あなたと市

広報
No.185

かんおんじ



2021 / 令和3年

3

March

特集

協力隊、



地域を吹き抜ける風になる。





特集

協力隊、地域を吹き抜ける風になる。

地域おこし協力隊、市内で活動中

令和2年度から、観音寺市では地域おこし協力隊を導入し、現在2人が隊員として活動しています。

地域おこし協力隊は、平成21年度に総務省が制度化した取り組みで、当初は全国で89人だった隊員数が、10年後の令和元年度には5503人に増加しています。

協力隊の仕事とは

地域おこし協力隊とは、都市から人口減少や過疎などが進行する地方に移住して、地域おこしの支援や農林水産業への従事、住民の生活支援などの地域協力活動を行いながら、その地域への定住や定着を図る制度です。

隊員の活動期間はおおむね1年から3年。隊員の約7割が2代から30代、約4割が女性です。任期終了後には約6割が同じ地域に定住しています。

三方よしの取り組み

地域おこし協力隊は、協力隊地域、自治体にとって「三方よし」の取り組みといわれています。

隊員にとっては、自分の才能や能力を生かした活動ができ、都市部から地方に移住することで、理想とする暮らしや生きがいの発見につながります。



市地域おこし協力隊の小原さんと渡邊さん（左から）

また、地域にとっては、隊員が持つ「ヨソモノ・ワカモノ」の斬新な視点で、これまで気付かなかった新しい価値を発見でき、隊員の熱意や行動力により大きな刺激を受けることができます。

そして、地方公共団体にとっては、行政ではできなかった柔軟な地域おこし策を取り入れることができ、移住者が増えることで地域活性化につながります。

県内では、2月1日現在で37人の協力隊が活動しており、県内外の隊員同士の情報交換の場も設けられています。

協力隊が、市内を吹き抜けて新しい気付きや活力を与えてくれる風のような存在になれることを期待しています。

3月号では、市内で活動している隊員2人の人となりや、制度を導入した団体代表者の声などを紹介します。



地域おこし協力隊って？

地域づくりに意欲のある都市部の人材を地方公共団体が積極的に誘致し、「地域おこし協力隊」として委嘱します。一定期間居住して「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取り組みです。

隊員の活動費は、総務省が隊員1人当たり440万円（報償費・諸経費含む）を上限に、地方公共団体へ特別交付税として措置します。活動期間はおおむね1年～3年ですが、3年を超えても活動は継続できます。

ドローン作家とまこさんの 1年の活動を振り返る

昨年の4月1日に横浜市から移住し、観音寺市の地域おこし協力隊に着任した渡邊智子さん。無人の小型航空機ドローンを利用する写真家・映像作家「とまこ」さんとして活動されています。

渡邊さんは、協力隊の導入を希望した観音寺商店街連合会の活性化のために着任。新型コロナウイルスの影響で活動が制限される中、ドローンを駆使して市内の夕焼けや海などを撮影し、SNSや動画投稿サイト「ユーチューブ」で積極的に発信を続けてきました。



現在進めているのが、インスタグラム「観音寺 Eats (イーツ)」。渡邊さんは、「これまで食にあまり興味がなかったのですが、コロナを契機に飲食業界のことをすごく考えるようになりました。おもしろいような写真はよくご覧になっていと思うので、食べている人の目線で動画を撮り、紹介しています」と話します。「景色は、観音寺市の良さを世界中に伝えたいという思いで発信していますが、観音寺 Eats は市内の皆さんに地元飲食店の魅力を伝え、お店に足を運んでもらえるきっかけになればと思っています」

協力隊になったきっかけ

市商店街と協力して仕事をしている東京在住の人から「市内でドローンを飛ばしてPRしない？」と誘われたのが、渡邊さんが協力隊を知ったきっかけです。それまで沖縄をはじめ各地で風景写真を撮影してきて、「良い景色の写真や動画を通して、

心にスーッと風が吹き抜けるような心地よい感覚を届けたい」という思いがありました。

観音寺には、世界レベルで すごい夕景がある

「私は、石垣や奄美、海外などあちこちの海で撮影していましたが、観音寺みたいなところは本当にありません。全て西向きで、夕日が海に沈む様子をどの季節でも見ることができるとはすごいこと。夕焼け空がいつも屈みでいる鏡のような瀬戸内海に移り込む情景は圧巻！

日本のどこにいても、世界中が赤に埋め尽くされるようなあの夕景が見たいと思わせてくれます」と渡邊さんは熱を込めて話します。

特に好きなのが花稻海岸。干潮時に川のような情緒ある潮だまりができる浜や石畳のような防波堤は、デートや散歩にぴったりと言います。

「北海道などの観光地と並んで観音寺市に来て！と言えるように、引き続きPRに力を入れたいです。観音寺の夕日は宝物です」

着任してもうすぐ1年

観音寺商店街連合会と連携
観音寺市地域おこし協力隊

渡邊 智子 さん

埼玉県出身

2020年4月～着任

大学卒業後に旅行会社へ就職し、秘境専門のツアーコンダクターとして活躍。退職後、世界各国を旅しながら執筆活動を行い、2017年よりドローンアーティストとして離島を中心に活動を行う。奄美観光大使。通称「とまこ」。無類のパンダ好き。



SNSで市内の魅力的な写真を掲載中。[#とまこドローン]で検索を

花稻海岸の防波堤で、相棒のドローンと共に



Tomako's VIEW /

渡邊さんの目を通すと、普段見ている景色がガラリと変わります。さて、ここはどこでしょう？



- 1_花稻海岸の防波堤 2_箕浦海岸防波堤の消波ブロック
3_豊浜町の田園風景 4_室本海岸の夕日 5_有明浜
この他にも、渡邊さんのSNSで日々市内の魅力的な風景が紹介されています。なお、防波堤を通る際は、足元に十分注意しましょう！

Welcome!

地域おこし協力隊 受け入れ団体の声

地域おこし協力隊は、事前に導入を希望した地域や団体と連携して地域の活性化を目指します。希望した観音寺商店街連合会と五郷里づくりの会の代表者にお話を聞きました。

観音寺市自体をPRし、人を呼び込まなければ商店街は生き残れません。店舗数は昔の3分の1ほどに減少していますが、お店を出したいと思えるようなまちにすることが大切です。そのために、渡邊さんのように自分の目線で市をPRできる方に来てほしかったのです。人が来てくれるようになれば、その人たちを商店街にどう呼び込むかは私たちが考えること。観音寺商店街は、「GoTo商店街事業」に県内で最初に事業採択されるなど、独自でも取り組みを進めています。たくさんの方に観音寺市を好きになってもらうことを一番の目的に、これからも一緒に盛り上げていきたいです。

五郷地区の活性化のために、平成23年に「五郷里づくりの会」を作り、活動を続けてきました。市の担当者から協力隊制度を教えてください、新しいマンパワーが入ったら地域がもっと良くなるという思いで希望しました。小原さんは料理人としての経験があるので、食のイベントなどを進める上で力強い支えです。また、県内外の協力隊と積極的に交流し学び、小原さん自身のやりたいことを見つけてほしいとも思っています。自分たちが楽しんで活動することで自然と活性化につながっていくというのが里づくりの会のモットーなので、ゆっくり理解を深め、地域になじんでほしいです。



観音寺商店街連合会
会長 竹内 勉さん
(観音寺町)

2月末に商店街連合会のホームページが完成。オンラインでの商品購入が可能に



五郷里づくりの会
会長 藤田 一さん
(大野原町)

4/18、5/15、6/6には、毎年恒例となった里山歩きツアーを開催予定

国立社会保障・人口問題研究所の推計では、2060年には市の人口は今の半分の3万人以下になることが予想されています。少子高齢化が急激に進み、にぎわいも少なくなるでしょう。地域活性化に興味がある都会の若者の定住・定着を図る施策が、地域おこし協力隊です。これまで培ってきた経験やスキルを生かして、地域に新しい風を吹かせることを期待しています。

政策部ふるさと活力創生課
地方創生推進室長 近藤 知章



1_2月1日に白川市長が委嘱状を交付 2_五郷地区住民が開いた着任式 3_フランス料理店で の休業時代 (写真中央)

観音寺市は父のふるさと
ことし2月に埼玉県から移住し、観音寺市として2人目の地域おこし協力隊に就任した小原祐二さん。フランス料理のシェフとして、フランスの2つ星レストランで勤務し、埼玉県で独立開業した際には、県産品や伝統食材を使用した料理を提供する「埼玉S級グルメ店」として、県知事から認定を受けた経験があります。

小原さんの任務は、大野原町五郷地区の地域活性化。住民団体「五郷里づくりの会」と協力し、これまでの経験を生かした仕事を期待されています。小原さんは「料理の仕事を25年続けてきて、協力隊は初めてですが、人に喜んでもらえる仕事ということは共通しています」と語り、「まずは、地元の方とコミュニケーションを取りながら、わくわくできるものを作りたい。五郷特産の蕎麦や農産物と飲食店をつなげるなど、新しいものを生み出してほしい」
2月1日の着任当日、早速五郷地区を訪れ、地元の方から温かい歓迎を受けました。



五郷里づくりの会と連携
観音寺市地域おこし協力隊
こはら 小原 祐二さん

埼玉県出身
2021年2月～着任
料理専門学校卒業後、都内のフランス料理店に勤務。フランスに3年間渡り、2つ星レストランで修行を積む。帰国後、埼玉県で独立し開業。協力隊就任を契機に両親と共に本市に移住した。キャンプが趣味。

2月、里づくりの会の拠点に3基目のピザ窯を設置。小原さんも製作に参加しました。ピザ作り体験イベントを検討中